

本番備え 入念点検

レスキューロボコン

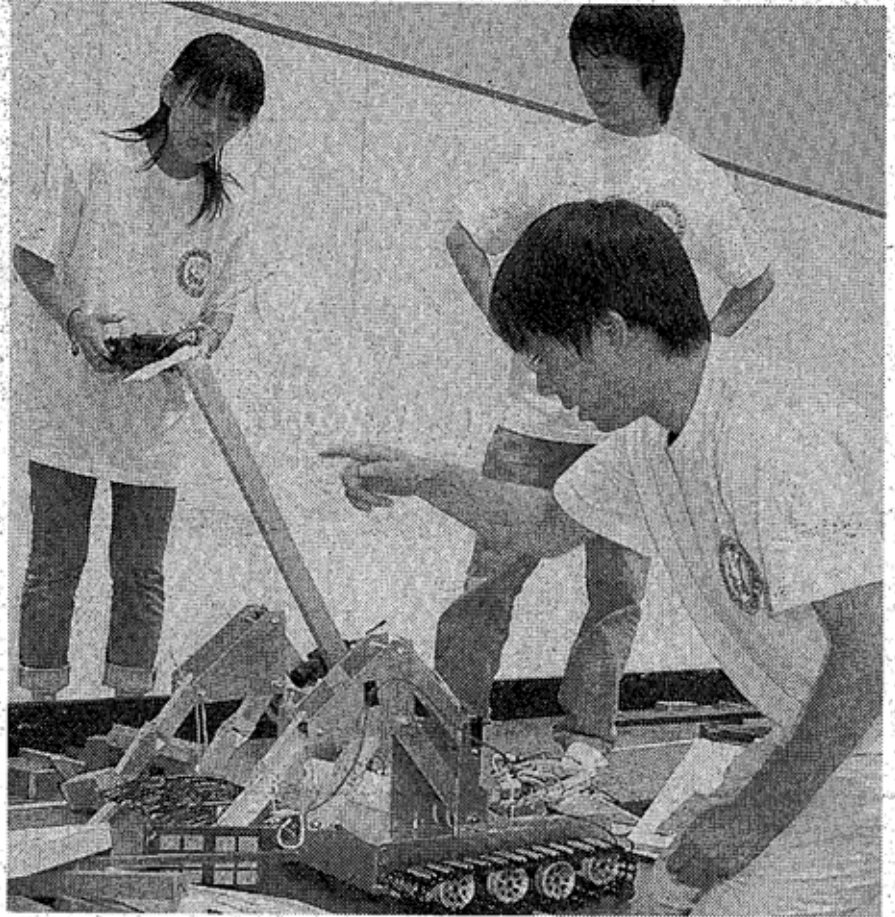
大規模災害時の救助活動を想定し、ロボットによる救助のスピードや安全性を競う「第5回レスキューロボットコンテスト」(同実行委員会、読売新聞大阪本社など主催)の試走会が26日、神戸市中央区の神戸国際展示場で行われた。会場では全国の高専、大学、社会人などの14チームが、8月の本番に備えてロボット

の動きや操作方法などを入念に点検した。

阪神大震災10年のイベントとして昨年に続き神戸で開催。地元から神戸大、神戸市立高専、市立科学技術高の3チームが出場する。

この日、会場では倒壊した建物やがれきでふさがった道路などを8分の1のスケールで再現。各チームはロボット

試走会で救助ロボットの動きを確認する参加者たち



を遠隔操作し、家屋の下敷きになったダミー人形を、がれきを取り除いて救出するなど何度もチェックしていた。

中央区で14チーム

と意気込んでいた。

初出場の科学技術高2年岡 競技は8月6、7日午前9時30分から同展示場で行われる。入場無料。